

公立大学法人長野大学

令和2年度 業務実績に関する評価書

令和3年8月

上田市公立大学法人評価委員会

◆ 目 次

I	令和2年度の業務実績評価について	1
II	評価結果	
1	全体評価	2
2	大項目別評価	4
3	項目別の事業単位・指標単位評価	5

上田市公立大学法人評価委員会 委員

役職	氏 名	所 属・職 名
委員長	いまい ひろし 今井 裕	中小企業診断士
委員長職務代理者	とりい のぞみ 鳥居 希	株式会社バリューボックス 取締役
委 員	さとう あきお 佐藤 明生	元信州大学大学院 教授・学長補佐
委 員	しろした とおる 城下 徹	城下工業株式会社 代表取締役
委 員	たむら てるこ 田村 照子	学校法人 文化学園 文化学園大学 名誉教授

I 令和2年度の業務実績評価について

上田市公立大学法人評価委員会は、地方独立行政法人法に基づき、「業務実績の評価に関する基本的な考え方」及び「公立大学法人長野大学 各事業年度の業務実績評価（年度評価）実施要領」により、公立大学法人長野大学（以下「法人」という。）の令和2年度における業務実績について、評価を行った。

1 評価に関する基本的な考え方

- (1) 評価は、教育研究の特性、自主性、自律性に配慮しつつ、法人の継続的な質的向上に資するものとする。
- (2) 評価は、中期目標・中期計画の達成状況を踏まえ、法人の業務実績全体について総合的に行う。
- (3) 評価は、一連の過程を通じて、法人の状況を分かりやすく示し、社会への説明責任を果たすものとする。
- (4) 評価は、法人が自主的に行う組織・業務全般の見直しや次期の中期目標・中期計画の検討に資するものとする。
- (5) 評価の仕組みについては、必要に応じて工夫・改善を行う。

2 評価方法

年度評価は、その目的を効率的かつ効果的に達成するため、法人がその業務実績に基づいて行う自己評価結果を踏まえ、項目別に評価のうえ、中期計画の進捗状況について総合的な評価（全体評価）を行った。

・全体評価

項目別評価の結果を踏まえ、中期目標の達成に向けた中期計画全体の進捗状況を総合的に勘案して評価を行った。

・大項目別評価

事業単位及び指標単位評価の結果を踏まえ、中期計画における5つの大項目（8区分）ごとの進捗状況について評価を行った。

・項目別評価

法人から提出された業務実績報告書について、法人関係者からのヒアリング等によって検証のうえ、事業単位及び指標単位毎の実施状況または達成状況を確認し、評価を行った。

評価区分		評定	標語	評価の目安
項目別評価	事業単位評価	a	年度計画を達成	上回る／十分な実施
		b	年度計画を概ね実施	実施
		c	年度計画を十分に実施せず	下回る／実施が不十分
		d	年度計画を大幅に下回る	特に劣る／実施せず
	指標単位評価	a	年度計画を達成	達成率 100%以上
		b	年度計画を概ね実施	達成率 80%以上 100%未満
		c	年度計画を十分に実施せず	達成率 60%以上 80%未満
		d	年度計画を大幅に下回る	達成率 60%未満
	大項目別評価	A	中期計画の進捗は順調	大項目別（8区分）に、中期計画の進捗状況について、事業単位評価及び指標単位評価から総合的に勘案し、評価
		B	中期計画の進捗は概ね順調	
		C	中期計画の進捗はやや遅れている	
		D	中期計画の進捗は遅れている	
全体評価	中期計画の進捗は順調			中期計画全体の進捗状況について、項目別評価から総合的に勘案し、評価
	中期計画の進捗は概ね順調			
	中期計画の進捗はやや遅れている			
	中期計画の進捗は遅れている			

Ⅱ 評価結果（全体評価／大項目別評価／事業単位・指標単位評価）

1 全体評価

（１）評価結果

「中期計画の進捗は概ね順調である」

（２）評価理由

ア．総括

長野大学大学院総合福祉学研究科の開設のため、カリキュラム検討や施設整備を行い、文部科学省から設置認可され、令和３年４月に長野県内初となる福祉系大学院が開設されたことは、大学改革の推進の第一歩と評価できる。今後、福祉領域に関する教育研究の更なる高度化に期待したい。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、大学全体の教育研究をはじめ、大学の運営など、様々な対応を求められる中で、オンライン授業への対応、学生への支援など、新たな環境へ対応するため、取り組まれていることは評価する。

イ．今後に対する意見

（ア）長野大学大学院が開設され、大学改革が着実に進んでいる。一方、学部学科再編については、学外有識者による意見交換や学部学科再編に係る地域産業界等のニーズ調査を実施し、地域産業界等が求める人材像の把握・分析が行われているものの、教員採用計画の策定や施設整備に向けた基本計画の着手に至っていない。淡水生物学研究所をはじめ、大学全体の将来構想のシミュレーションの提示が求められる。

（イ）大学運営の中で、理事会において経営と教学の擦り合わせが行われているものの、現行の積算方法による分析だけでは、現状の課題の本質は見えてこないのではないか。

経営分析の結果やその課題を共有するなどの打ち合わせの頻度を増やすことで、大学運営に反映させる仕組みづくりにつながることを期待する。

（ウ）全教員対象の業績評価制度について、評価の数値化などを取り入れ、評価制度が制定された点は評価できる。今後は、制度を運用する中で、教員の育成やモチベーションアップなどの直接的な効果が得られるか、これからの結果を注視し、改善を行いながら、より良い業績評価制度となることに期待する。

また、事務職員の評価制度、育成体制なども積極的に整えることを要望する。

（エ）コロナ禍の影響で海外大学との連携は厳しい状況であり、複数年にわたって、海外大学との協定の課題が解決されていない案件もある。なかなか進捗がない大学との協定を目指すだけでなく、新たな海外大学との連携を模索するなど、幅を広げて良いのではないかと。

（オ）業務実績報告書の全般において、大学が取り組んだことはわかるが、その具体的な成果や結論が見えてこないため、目標を達成できているのか、分かりにくい。取り組んだ結果の成果と課題が分かりやすい表現となるよう、さらなる検証と改善を求める。

〈重点事項への取組について〉

【教育】 B 中期計画の進捗は概ね順調

理数系教養教育科目 5 科目の新規開講、人格形成に向けた 5 系統教養科目の次年度開講準備、履修系統図を意識したシラバス記載等による専門教育改善等、教育内容の充実を図るとともに、コロナ禍という厳しい環境の中、オンライン授業実施に対するきめ細かな対応や、その後の対面授業の拡大（後期は 56%の科目を対面授業）、学生への個別の対応、また、新型コロナウイルス感染症対策による地域課題解決にかかる演習、ゼミナール、プロジェクトの推進など、それぞれのきめ細かな対応を評価する。

授業方法及びその内容の改善に必要な授業アンケートについては、今回 WEB アンケートの実施による新たな取り組みをしたが、良い点（利便性向上）、悪い点（回収率低下）などがあり、今後その改善やその内容への対応など、積極的な対応をしていく必要がある。

【研究】 B 中期計画の進捗は概ね順調

長野大学研究助成制度及び外部アドバイザー制度の継続等により、令和 3 年度科研費申請件数（研究代表者件数）は、21 件となり例年よりも増加し、更に採択率も大幅に向上したことは評価できる。

中期計画では、地域を研究の主題とし、現実的な問題を解決するための研究成果を地域社会に還元し、持続可能な共生社会の創造に寄与することが目標である。研究内容の検証や地域社会に寄与しているかを、検証・確認するべきである。

淡水生物学研究所については、基本構想の立案とともに、研究所の必要性や今後の研究の重要性などを広く外部に知らせ理解を得、より有効な研究所にする努力が必要である。

【地域貢献】 B 中期計画の進捗は概ね順調

コロナ禍での影響もありながら、様々な地域との取組についても、中止・実施を判断しながら、適切に実行したことを評価する。

また、各企業との受託研究やイノベーションプロジェクトに取り組みが進み、その実績も出ていることは評価したい。

地域・企業などとの連携には「地域づくり総合センター」の機能強化が望まれるため、今後の取組に期待する。

【大学運営の改善】 B 中期計画の進捗は概ね順調

外部理事の増員に向けた様々な調整など、新理事長による新たな取り組み体制が整えられていることは評価したい。

志願者数の確保及び入学定員確保による学生納付金収入の確保、また、その経済的支援制度事業への申請など、コロナ禍であることを踏まえた積極的な対応を評価する。

大学院の設置、学部・学科編成の見直し、マスタープラン、少子化の統計的推移などから、今後の全体の財務シミュレーションを繰り返し、安定した財務体質の確保と将来への希望が持てる運営に繋がりたい。

2 大項目別評価

(1) 大項目別評価結果 (一覧)

大項目(8区分)	項目		項目別評価結果 ※(1)				評価結果 ※(2)
			a	b	c	d	
第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標	事業	54	7	46	1		B
1 教育に関する目標	指標	1		1			
2 研究に関する目標	事業	4	1	3			B
3 地域貢献、地域の人材育成等に関する目標	事業	9	2	7			B
4 国際交流に関する目標	事業	3		1	2		C
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標	事業	13	2	10	1		B
第4 財務内容の改善に関する目標	事業	21		19	2		B
第5 自己点検・評価及び情報公開の推進に関する目標	事業	4	1	3			B
第6 その他業務運営に関する目標	事業	11	2	9			B
合計	—	120	15	99	6	0	
(参考) 公立大学法人長野大学 自己評価	—	120	26	89	5	0	
(参考) 令和元年度業務実績評価	—	101	16	71	14	0	
(参考) 平成30年度業務実績評価	—	93	17	56	17	3	
(参考) 平成29年度業務実績評価	—	104	9	69	25	1	

※(1) 事業単位評価／指標単位評価

a : 年度計画を達成

b : 年度計画を概ね実施

c : 年度計画を十分に実施せず

d : 年度計画を大幅に下回る

※(2) 大項目別評価

A : 中期計画の進捗は順調

B : 中期計画の進捗は概ね順調

C : 中期計画の進捗はやや遅れている

D : 中期計画の進捗は遅れている

3 項目別の事業単位・指標単位評価

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

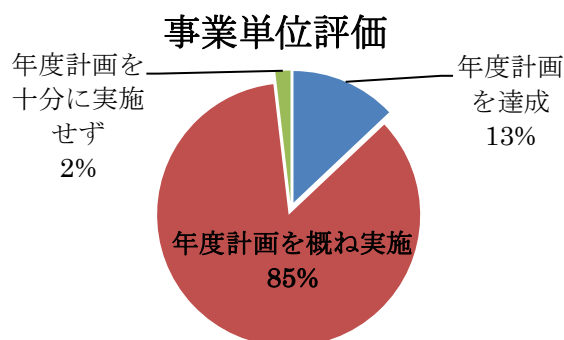
1 教育に関する目標を達成するための措置

評価	評価基準
B	中期計画の進捗は概ね順調である。

(1) 評価理由

54項目のうち、7項目が「a評価」(年度計画を達成)、46項目が「b評価」(年度計画を概ね実施)、1項目が「c評価」(年度計画を十分に実施せず)の評価結果となり、これらを総合的に勘案すると、B評価(中期計画の進捗は概ね順調)が相当である。

	項目数	a	b	c	d
		年度計画を達成	年度計画を概ね実施	年度計画を十分に実施せず	年度計画を大幅に下回る
事業単位 評価結果	54	7	46	1	0
	構成比	(13%)	(85%)	(2%)	(0%)
指標単位 評価結果	1	0	1	0	0
	構成比	(0%)	(100%)	(0%)	(0%)



指標単位評価



(2) 評価できる点 (No. 年度計画番号を示す。)

- (ア) 経済的な支援を求める学生に対して、様々な制度を実施し、経済的な理由による退学者を減少させるよう努めている。(No. 39)
- (イ) 3年生を対象にしたキャリアガイダンスについて、学生アンケートから参考な声が多くあり、有意義なガイダンスだったことがわかる。(No. 42)
- (ウ) 就職活動中の学生の状況を確認するために、一人ひとりに電話にて連絡フォローするなど、きめ細かな対応であると評価できる。(No. 47)

(3) 課題となる点、その他指摘すべき事項 (No. 年度計画番号を示す。)

- (ア) 早急に学部学科再編構想による教員採用計画を策定する必要がある。(No. 16)
- (イ) 教員評価制度とあわせて、事務職員の評価制度の早急な策定が望まれる。(No. 18)
- (ウ) インターンシップの必要性や利点を企業・学生の双方にアピールできるよう、位置づけを再検討し、制度がさらに充実されることを期待する。(No. 45)
- (エ) 地域企業との連携がまだ不十分と感じられ、上小地域の各商工会議所等と連携会議を持つなど、連携を強化すべきである。(No. 52)

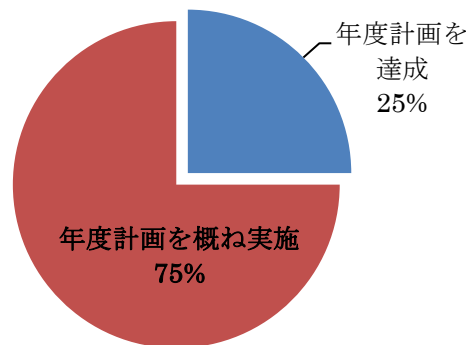
2 研究に関する目標を達成するための措置

評価	評価基準
B	中期計画の進捗は概ね順調である

(1) 評価理由

4項目のうち、1項目が「a評価」(年度計画を達成)、3項目が「b評価」(年度計画を概ね実施)の評価結果となり、これらを総合的に勘案すると、B評価(中期計画の進捗は概ね順調)が相当である。

	項目数	a	b	c	d
		年度計画を達成	年度計画を概ね実施	年度計画を十分に実施せず	年度計画を大幅に下回る
事業単位	4	1	3	0	0
評価結果	構成比	(25%)	(75%)	(0%)	(0%)



(2) 評価できる点 (No. 年度計画番号を示す。)

(ア) 「科学研究費補助金」等競争的外部資金の新規申請率が目標とした43.5%以上の57.6%となっている。(No. 62)

(イ) コンプライアンス研究倫理研修会を開催し、コンプライアンスの理解の徹底を図っている。(No. 63)

(3) 課題となる点、その他指摘すべき事項 (No. 年度計画番号を示す。)

(ア) 競争的外部資金や共同研究への申請率は高いとは言えない。各教員の自主的・自発的な申請を助長するような仕組み作り、雰囲気作りも必要である。(No. 60)

(イ) 中央水産研究所旧上田庁舎の活用は、淡水生物学研究所の活動のみに限定することなく、既存学部での教育・研究での活用の可能性も広く模索する必要がある。(No. 60)

(ウ) 淡水生物学研究所や千曲川再生や治水等研究などの取組が、今後の理工系学部とどう関連するのか、明確に示す必要がある。(No. 60)

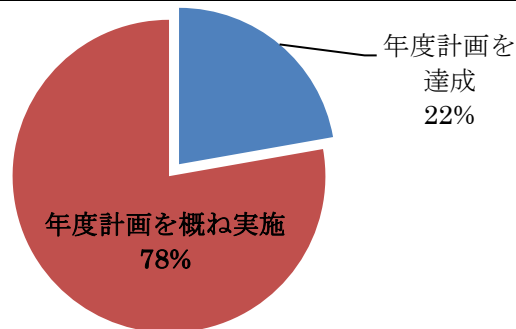
3 地域貢献、地域の人材育成等に関する目標を達成するための措置

評価	評価基準
B	中期計画の進捗は概ね順調である

(1) 評価理由

9項目のうち、2項目が「a評価」(年度計画を達成)、7項目が「b評価」(年度計画を概ね実施)、の評価結果となり、これらを総合的に勘案すると、B評価(中期計画の進捗は概ね順調)が相当である。

	項目数	a	b	c	d
		年度計画を達成	年度計画を概ね実施	年度計画を十分に実施せず	年度計画を大幅に下回る
事業単位	9	2	7	0	0
評価結果	構成比	(22%)	(78%)	(0%)	(0%)



(2) 評価できる点 (No. 年度計画番号を示す。)

- (ア) 総合型選抜に地域特別枠を設定するなど、制度を改善し、上田地域定住自立圏域や県内の学生の確保ができています。(No. 68)
- (イ) 小中高との連携を目指し、大変多くの事業が行われている。各学校においても長野大学の存在が利となることが予想でき、評価できる。(No. 73)

(3) 課題となる点、その他指摘すべき事項 (No. 年度計画番号を示す。)

- (ア) 地域特別枠での志願者が増えたものの、総合型選抜及び学校推薦型選抜の志願者数が減少している。その要因を検証し、対策が必要である。(No. 68)
- (イ) 各企業や団体との連携協定に基づいた事業が推進されていることは確認できるが、更にそれを発展されたい。受託研究推進のために、ホームページ等を活用した情報発信や地域共同プロジェクトなどのマッチングを図られたい。(No. 75)

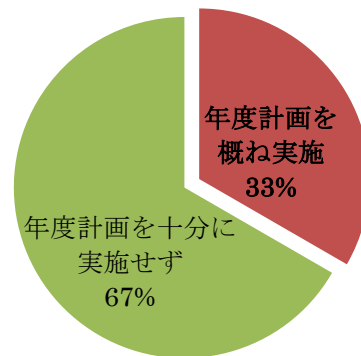
4 国際交流に関する目標を達成するための措置

評価	評価基準
C	中期計画の進捗はやや遅れている

(1) 評価理由

3項目のうち、1項目が「b評価」(年度計画を概ね実施)、2項目が「c評価」(年度計画を十分に実施せず)の評価結果となり、これらを総合的に勘案すると、C評価(中期計画の進捗はやや遅れている)が相当である。

	項目数	a	b	c	d
		年度計画を達成	年度計画を概ね実施	年度計画を十分に実施せず	年度計画を大幅に下回る
事業単位	3	0	1	2	0
評価結果	構成比	(0%)	(33%)	(67%)	(0%)



(2) 課題となる点、その他指摘すべき事項(No. 年度計画番号を示す。)

- (ア) 留学生を地域企業に送り出す仕組みの構築については、業界・仕事研究セミナーでのアンケート実施止まりで、送り出す仕組みにまで至っておらず、仕組みづくりの検討が必要である。(No. 77)
- (イ) 留学生が安心して将来を考えられるような包括的な支援が、コロナ禍でも必要ではないか。(No. 77)
- (ウ) 企業における海外の人材ニーズを把握するために、企業の採用担当者に対する、留学生に特定したアンケート方法の改善が必要である。(No. 77)
- (エ) コロナ禍にあってオンライン海外留学体験が実施されたが、学生の語学力向上に向け、検定試験受験者数の増加に向けた取り組みが必要である。(No. 4)
- (オ) 英語圏大学との連携・協定の進捗が進んでいない。台湾・ニュージーランド以外も視野に入れるべきである。(No. 79)
- (カ) 専門スタッフによる留学生の支援内容の充実・交流の活性化が必要である。(No. 80)

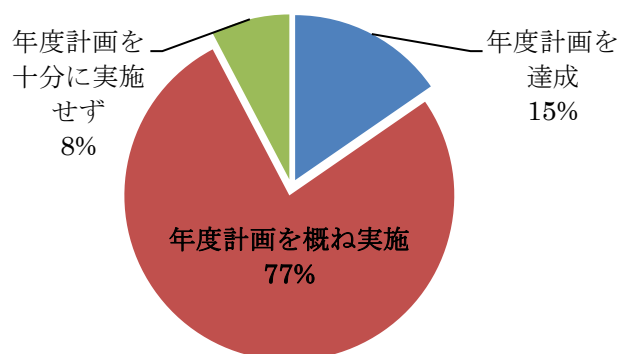
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

評価	評価基準
B	中期計画の進捗は概ね順調である

(1) 評価理由

13項目のうち、2項目が「a評価」（年度計画を達成）、10項目が「b評価」（年度計画を概ね実施）、1項目が「c評価」（年度計画を十分に実施せず）の評価結果となり、これらを総合的に勘案すると、B評価（中期計画の進捗は概ね順調）が相当である。

	項目数	a	b	c	d
		年度計画を達成	年度計画を概ね実施	年度計画を十分に実施せず	年度計画を大幅に下回る
事業単位	13	2	10	1	0
評価結果	構成比	(15%)	(77%)	(8%)	(0%)



(2) 評価できる点 (No. 年度計画番号を示す。)

- (ア) 内部監査の計画が策定され、計画に基づく監査を実施している。(No. 85)
- (イ) 文部科学省との協議を進め、長野大学大学院が設置され、施設整備もなされている。(No. 87)

(3) 課題となる点、その他指摘すべき事項 (No. 年度計画番号を示す。)

- (ア) 令和2年度においては、教育研究審議会委員に1人、専任教員に2人女性が増え、ジェンダーバランスの改善をしようしていることは理解でき、動きがあったことは評価できる。一方で、役員・専任教員全体での女性の割合は13.4%であり、バランスが確保できているとは言い難いため、多様な方達から意見を聞く体制の構築に努められたい。(No. 81)
- (イ) 経営目標を設定するにあたり、現在の教学状況や大学規模に見合う理想の姿は、他大学との比較や各指針などで大方の算出ができないのか。(No. 82)

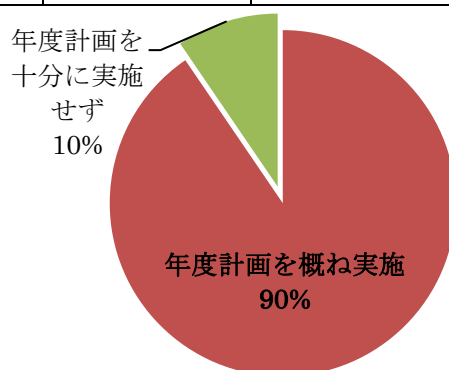
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

評価	評価基準
B	中期計画の進捗は概ね順調である

(1) 評価理由

21項目のうち、19項目が「b評価」(年度計画を概ね実施)、2項目が「c評価」(年度計画を十分に実施せず)の評価結果となり、これらを総合的に勘案すると、B評価(中期計画の進捗は概ね順調)が相当である。

	項目数	a	b	c	d
		年度計画を達成	年度計画を概ね実施	年度計画を十分に実施せず	年度計画を大幅に下回る
事業単位	21	0	19	2	0
評価結果	構成比	(0%)	(90%)	(10%)	(0%)



(2) 評価できる点 (No. 年度計画番号を示す。)

- (ア) 広報について、オンラインでの対応やコンテンツの増加などで、再生回数の結果を見ると一定の効果があつたと評価できる。(No. 99)
- (イ) コロナ禍のなか、可能な限り、オープンキャンパスや高校説明会、大学見学会を実施し、学生募集を推進している。(No. 102)

(3) 課題となる点、その他指摘すべき事項 (No. 年度計画番号を示す。)

- (ア) 既存学部の再編検討結果の提出について、学部の見直しとそのロードマップ策定とは判断し難い。建設的かつ具体的な検討重ね、ロードマップの策定を早急に進めていただきたい。(No. 98)
- (イ) 志願倍率は、目標値を達成しているが、環境ツーリズム学部、企業情報学部で少しずつ志願者総数が減少している傾向がみられるため、対応の必要がある。(No. 102)
- (ウ) 学生アンケートではホームページからの情報入手が一番多いため、ホームページリニューアルやスマートフォン最適化など最優先で取り組む必要がある。(No. 103)
- (エ) 学部学科再編や設備の更新など、様々な要因を踏まえた形での財政シミュレーションを行わない限り、いたずらに学納金の見直しを検討することはできないと思われる。まずは、幾つかの状況を想定した財政シミュレーションが必要である。(No. 106)

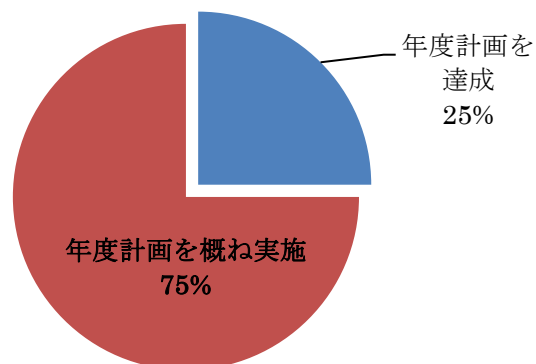
第5 自己点検・評価及び情報公開の推進に関する目標を達成するための措置

評価	評価基準
B	中期計画の進捗は概ね順調である

(1) 評価理由

4項目のうち、1項目が「a評価」(年度計画を達成)、3項目が「b評価」(年度計画を概ね実施)の評価結果となり、これらを総合的に勘案すると、B評価(中期計画の進捗は概ね順調)が相当である。

	項目数	a	b	c	d
		年度計画を達成	年度計画を概ね実施	年度計画を十分に実施せず	年度計画を大幅に下回る
事業単位	4	1	3	0	0
評価結果	構成比	(25%)	(75%)	(0%)	(0%)



(2) 評価できる点 (No. 年度計画番号を示す。)

(ア) ホームページにおいて、ニュース&トピックスでは細かく情報発信している。また、財務レポートもよくまとまっており評価できる。(No. 122)

(3) 課題となる点、その他指摘すべき事項 (No. 年度計画番号を示す。)

(ア) ホームページのリニューアルにより、これまで以上に分かりやすい情報公開につながることを期待する。(No. 122)

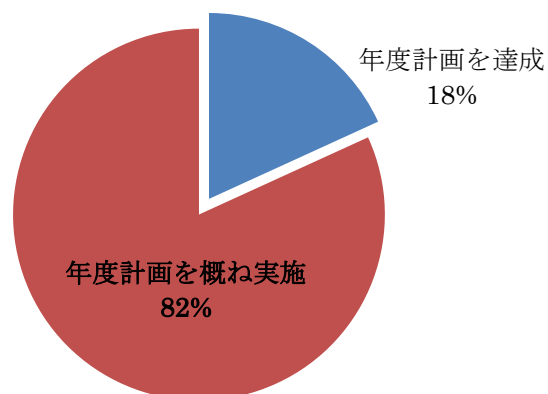
第6 その他業務運営に関する目標を達成するための措置

評価	評価基準
B	中期計画の進捗は概ね順調である

(1) 評価理由

11項目のうち、2項目が「a評価」(年度計画を達成)、9項目が「b評価」(年度計画を概ね実施)の評価結果となり、これらを総合的に勘案すると、B評価(中期計画の進捗は概ね順調)が相当である。

	項目数	a	b	c	d
		年度計画を達成	年度計画を概ね実施	年度計画を十分に実施せず	年度計画を大幅に下回る
事業単位	11	2	9	0	0
評価結果	構成比	(18%)	(82%)	(0%)	(0%)



(2) 評価できる点 (No. 年度計画番号を示す。)

- (ア) 内部監査によるコンプライアンス啓発を行っており、相応の進捗といえる。(No. 123)
- (イ) LED化、省エネルギー化を推進し、空調の消し忘れ防止など光熱費の節減に努めている (No. 133)

(3) 課題となる点、その他指摘すべき事項 (No. 年度計画番号を示す。)

- (ア) 内部監査の実施結果を学内の教職員で共有する手段を徹底する必要がある。併せて、学生の意識向上についての取組を促進されたい。(No. 123)
- (イ) 大学全体を通して、コロナ禍により例年にはない対応が継続的に必要となり、実施されている。
学生を支援する側の負担もかなり大きく、教職員の心身の健康を重視して、ケアできる体制をつくられたい。(No. 132)